

広がるAIDS文化フォーラム

2017 報告書

AIDS 文化フォーラム in 陸前高田

2017 12/3日

Rikuzentakata

AIDS 文化フォーラム in 佐賀

2017 6/17土→18日

AIDS 文化フォーラム in 横浜

2017 8/4金→6日

Yokohama

Kyoto

Nagoya

Saga

AIDS 文化フォーラム in 京都

2017 9/30土→10/1日

AIDS 文化フォーラム in 名古屋

2017 9/24日

AIDS文化フォーラムin佐賀

2017 6/17(土)~18(日)

エイズを知ろう、エイズで学ぼう

会場 アバンセ（佐賀県立男女共同参画センター、佐賀県立生涯学習センター）

参加者 977人

プログラム 発表プログラム13 展示ブース15 交流プログラム2

ボランティア 80人

主催 AIDS文化フォーラムin佐賀運営委員会

共催 産学官包括連携協定（佐賀県 佐賀大学 佐賀県市長会 佐賀県町村会
佐賀県商工会議所連合会 佐賀県商工会連合会）

思春期ネットワーク・佐賀

運営 AIDS文化フォーラムin佐賀運営委員会

AIDS文化フォーラム in 佐賀を振り返って…

（１）開会式・閉会式「なぜAIDS?なぜ文化?なぜ佐賀?」

開会式では、AIDS文化フォーラムの開催意義を「エイズ・HIVを単に医療的側面からだけではなく、エイズ・HIVを通して、他人ごとではなく、私を含めて生きる文化的な背景として考える機会とする」とし、全体で再認識しました。閉会式では、2017年AIDS文化フォーラムの開催地順に挨拶を行い、AIDS文化フォーラムの全国への広がりや連携をアピールしました。

（２）分科会

6/17に「石田純一と語るHIV/AIDS」をアバンセホールで開催した。メディアでの注目も高く、多くの市民が参加した。石田純一さんのトーク・ライブに、専門家によるミニ・レクチャーもあり、多くの来場者がHIV/AIDSに対する最新の状況を知る機会となった。6/18の分科会は、九州各地で活動している講師や団体を中心にプログラムを行い、医療の専門家や臨床心理士の発表や、「LGBT支援」「身体性別と性自認」などの多彩な発表を行いました。

（３）展示

今年度は、6/17がアバンセホールイベントのみの開催のため、初日はホールホワイエで展示を行い、多くの来場者で展示会場がにぎわいました。6/18はアバンセ4階研修室で分科会を開催し、1階を展示コーナーとし開催しました。

（４）広域連携事業「広がるAIDS文化フォーラム」

昨年度の横浜、京都、陸前高田、佐賀の開催報告の「広がるAIDS文化フォーラム」パネル展示と各地の報告書を配置、今年度初めて開催の名古屋のPRを行いました。

（５）アフターパーティー

AIDS文化フォーラムin佐賀の名物となった、アフターパーティー。運営委員長の大隈良成氏も参加するDrバンドおよび雄太団、その後の森林原人さんとMC古川潤哉僧侶による夜のトークショーは、夜ならではの啓発イベントとして多くの人が参加し盛り上がりしました。



エイズの不安 知識で解消 佐賀市 石田純一さんら訴え

エイズやエイズウイルス（HIV）への理解を広めるための「第3回 AIDS 文化フォーラム in 佐賀」が17日、佐賀市のアバンセで始まった。初日のトークセッションには俳優の石田純一さんが参加し、「無知が偏見や不安を引き起こす。エイズへの漠然とした不安は、知識を得て解消できる」と呼び掛けた。

石田さんに加え、九州医療センターの高濱宗一郎医師ら3人が登壇した。高濱医師は、HIVに感染しても服薬で免疫力を回復できることや、早期発見でエイズを治すことも可能と説明した。石田さんは、エイズは不治の病というイメージだったので驚き。知らない、必要以上に怖がってしまつ」と治療の現状に関心を寄せた。

保健所で無料、匿名でHIV・エイズ検査ができることも取り上げられた。浄誓寺（伊万里市）の僧侶古川潤哉さんは「検査をやまじいと思つ風潮がある」と問題視し、石田さんは「放つておくことは罪。とにかく検査へ行くと、いう意識を持つべき」と促した。

フォーラムは18日まで。2日目は午前10時半から午後3時10分まで、アバンセ4階の研修室で臨床心理士やAV男優らが講演する。（西麻希）



2日目は午前10時半から午後3時10分まで、アバンセ4階の研修室で臨床心理士やAV男優らが講演する。（西麻希）



入場・参加 無料！ 最新情報はこちら【<http://abfs.red>】



吉村 春生
佐賀 臨床心理士



岩室 紳也
横浜 泌尿器科医師



森林 原人
東京 セクシー男優



原 亮
佐賀 AO★AQUA 代表





池田 稔
熊本 泌尿器科医師



スペシャルゲスト
俳優 石田純一
トークショー



古川 潤哉
佐賀 浄土真宗僧侶

第3回 AIDS文化フォーラムin佐賀
テーマ「エイズを知ろう、エイズで学ぼう」
HIV/AIDSを、背景周辺も含めた文化として考える・知る市民フォーラム
2017年
6月17日(土) 13:00~16:30 (入場整理券 12:00~)
18日(日) 10:30~15:10
会場 アバンセ 〒840-0815 佐賀市天神3-2-11 0952-26-0011
主催 AIDS文化フォーラムin佐賀 運営委員会
共催 産学官包括連携協定
(佐賀県 佐賀大学 佐賀県市長会 佐賀県町村会 佐賀県商工会議所連合会 佐賀県商工会連合会) 恵春期ネットワーク・佐賀
後援 (公財)佐賀県女性と生涯学習財団 佐賀県医師会 佐賀県産婦人科医会 公益社団法人佐賀県看護協会 九州総合短期大学 佐賀女子短期大学 NPO法人ピルコン 日本赤十字社佐賀県支部 AO★AQUA JICA九州 Love Act Fukuoka とともに拓くLGBTIQの会くもと
Sponsored by Shimizu & Associates, Inc. Main Sponsor by Shimizu & Associates, Inc. <http://www.shimizu.co.jp>



AIDS文化フォーラムin横浜

2017 8/5(金)～7(日)

リアルとであう

会 場 かながわ県民センター
参 加 者 6,394人
プログラム 発表プログラム45 展示ブース12 交流プログラム2
ボランティア イベントボランティア 76人
主 催 AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会
共 催 神奈川県
運 営 AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会
事 務 局 横浜YMCA

AIDS文化フォーラム in 横浜を振り返って・・・

(1) 開会式・オープニング「リアルとであう」

下村健一さん（白鷗大学客員教授/元TBS報道キャスター）、吉沢明歩さん（タレント）、AIDS文化フォーラムin横浜運営委員の岩室紳也さんが登壇し、それぞれ報道、女優、普及啓発を行う医師の立場から「リアルの壁」についてともに考える時間となりました。リアル（本物、現実）との接点が減り、バーチャル（仮想、2次元）な世界が広がる現実社会の中で、人は知識ではなく、経験に学ぶことについてそれぞれの立場から発信されました。

(2) 分科会

声優の三ツ矢雄二さんと岩室紳也さんの「三ツ矢雄二×コンドームの達人のトーク」、当事者、牧師、僧侶、医師が生や性について語る「宗教とエイズPart.11」、基礎講座として運営委員で看護教員の山田雅子氏による初心者向け基礎講座「HIV/AIDSすきまミニ講座」（全3回）、精神科医の松本俊彦氏による「人はなぜ薬物依存症になるのか～痛み、コントロール、そしてHIV～」など、各団体、オリジナリティのあるプログラムで多くの来場者がありました。「つながる、ひろがる、わかちあう」のテーマに沿った多くの発表がありました。

(3) 展示場

今年度は会場の都合で、展示会場を1階ロビー、2階ロビーに分けて行いました。13団体による活動紹介展示、神奈川県健康危機管理課による予防啓発展示、協賛団体による予防啓発グッズの展示と配布を実施しました。来場者に多くの展示ブースに立ち寄っていただいたためスタンプラリー今年新に行き、来場者に好評でした。8月5日に実施した横浜雙葉学園高校茶道部によるお茶席は、来場者や参加団体の交流の場となり多くの方が集まりました。

(4) 広域連携事業「広がるAIDS文化フォーラム」

エイズ予防財団からの支援を得て、京都、陸前高田、佐賀へと広がったAIDS文化フォーラムのパネル展「広がるAIDS文化フォーラム」を開催し、各会場の特徴等をまとめたポスター展示により、全国の広がりアピールしました。今年度初めて開催する名古屋のPRを行いました。

AIDS文化フォーラムin名古屋

2017 9/24(日)

性を考えよう！

会場 南山学園 講堂
参加者 約300人
プログラム 発表プログラム36 展示ブース19
ボランティア 20人
主催 AIDS文化フォーラムin NAGOYA組織委員会
共催 愛知・思春期研究会
運営 AIDS文化フォーラムin NAGOYA運営委員会

AIDS文化フォーラム in 名古屋を振り返って…

プログラムについて

(1) 開会式・閉会式

名古屋を中心に活動しているセクシャルマイノリティアイドルグループ『NSM=』さんと共に『秘忍者 ジミー・ハットリ』くんが歌とダンスで会場を盛り上げました。

(2) 分科会

秘忍者 ジミー・ハットリと性を考えよう！『知識だけじゃダメ！？！』では、コーディネーターにコンドームの達人岩室紳也さんを迎え、今までの歴代講師5人で『知識だけではダメ！？！』というテーマでトークを行いました。児童虐待防止、HIV/AIDS・STI 予防啓発、LGBT、再非行防止、性被害者支援という一見全く接点のない問題から『居場所がない』『自己肯定感が低い』という共通点を見つけ出し、どの問題も根底では『生きづらさ』を抱えているという事を導き出しました。相互に理解すること、他人を思いやることで人には『居場所』ができ、様々な問題を解決できるということをとともに考えました。これをきっかけに、他団体の活動が決して他人事ではないという事を確認しあえたことで、より一層今後の活動で連携や協力を推進するきっかけとなりました。また、その他にも、愛知・思春期研究会の『咲江&ボッチのマジックで性教育』ではマジックという切り口から性教育を語りました。国際医学生連盟日本 SCORAと一般社団法人日本薬学生連盟による『モバイルコミュニケーション・クライシス』、岩室紳也さんの『コンドームの達人が伝える性の問題』など多くのプログラムを行うことができました。

(3) 展示

26団体が展示団体として参加しました。内容も展示のみではなく、飲食やライブといった催しをすることで、展示会場に多くの方にお越しいただき、とても賑やかでした。展示会場のみの参加の方もいましたが、とても楽しく、様々な学びがある展示会場とすることができました。愛笑むさんのライブにはたくさんの方が集まり、音楽をきっかけにしながら、AIDSについて知る・考えるという良い機会となりました。

(4) 広域連携事業「広がるAIDS文化フォーラム」

横浜、京都、陸前高田、佐賀との協力で、全国5会場のAIDS文化フォーラムのパネル展「広がるAIDS文化フォーラム」を開催し、各会場の特徴等をまとめたポスター展示により、全国との協力をアピールしました。



第1回 AIDS文化フォーラム & in NAGOYA 性教育フォーラム

2017年9月24日sun.
開場 9:30 / 開演 10:00
会場 南山学園講堂
 ■アクセス 名古屋市中区錦三丁目 徒歩5分
 主催 AIDS文化フォーラムin名古屋運営委員会・愛知恵寿期研究会
 助成 モリコロ基金

AIDS文化フォーラムin京都

2017 9/30(土) ~ 10/1(日)

レッドリボン大作戦

会 場 同志社大学 新町キャンパス 尋真館 3・4階

参 加 者 約1,000人

プログラム 発表プログラム36 展示ブース15

ボランティア 56人

主 催 AIDS文化フォーラムin京都運営委員会

共 催 京都府、京都市

運 営 AIDS文化フォーラムin京都運営委員会

事 務 局 京都YMCA

AIDS文化フォーラム in 京都を振り返って…

プログラムについて

(1) オープニング全体会

「アディクションからの回復に必要なもの」と題して、松本俊彦さん（国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター）の講演を行いました。依存症の本質は「安心して人に依存できないこと」であり、回復の鍵となるのは人との社会とのつながりであること学び、そのようなつながりを作るために私たちに何ができるのかを考える機会となりました。

(2) 全体会 「はるな愛さん登場！ “AIDS文化フォーラムin京都で何を語る？”」

ミニレクチャー「今、エイズってどうなってるの？」と題し、歌手・タレントのはるな愛さんトーク・ライブを行いました。性の多様性を知ることからHIVを理解していくことや、HIV予防対策や治療についてなど多岐にわたるトークなどを通して、HIV/AIDSが決して他人ごとではないことの啓発を目指すAIDS文化フォーラムin京都にふさわしい学びの時間になりました。

(3) 分科会

「共に生きる」「予防」「文化」「薬物」「セクシュアリティ」「教育」「保健・医療・福祉」「若者」をキーワードに多彩なセッションを行いました。第1回から継続しているものや新たな参加団体のセッション・講演・ワークショップに多くの来場者がありました。また、共催の京都市保健医療課によるHIV抗体即日検査（無料・匿名）を52名が受検しました。

(4) 展示

共催の京都府、京都市による「京都府保健所のエイズ等予防教育」「HIV検査ってなんだろう？」等の様々な展示や学生グループによるワークショップを実施しました。

(5) 広域連携事業「広がるAIDS文化フォーラム」

横浜、陸前高田、佐賀、名古屋のAIDS文化フォーラムの展示を行い、広がりを紹介しました。また、各地のフォーラムの講師が京都のフォーラムに多く参加し、連携することができました。8月26日にイベント講演会「性的指向・性自認に係る児童生徒に対する理解と支援について」（講師：繁内幸治さん全国LGBT理解増進ネットワーク会議代表世話人）を開催しました。2018年1月27日、H29年度関西HIV臨床カンファレンスNGO・NPO交流会で報告を予定しています。



若い世代が多くなる京都で、身近な性の問題について考えてもらおうと、医療関係者らでつくる運営委員会が毎年開き、7回目。

全体講演で、国立精神・神経医療研究センター（東京都）の松本俊彦・薬物依存研究部長は、多くの薬物依存症患者が精神障害など

エイズについて理解を併合しているとし、を深める「AIDS文「不安や不眠を和らげ化フォーラムin京都」が30日、京都市上京区の同志社大新町キャンパスで始まった。講演やワークショップを通じて、性の多様性について理解を深め、他にも薬害エイズや宗教と性を考える分科会があった。1日は、タレントはるな愛さんらの講演がある。入場無料。（富田芳夫）

薬物依存者の孤立防ごう

上京でエイズフォーラム



薬物依存症患者の支援について語る松本さん（京都市上京区・同志社大）



第7回AIDS文化フォーラムin京都

レッドボン 大作戦

2017
9.30(土)・10.1(日)
12:30-18:30 10:00-17:00

・会場 同志社大学
新町キャンパス 尋真館 (5階)
京都市地下鉄丸太町駅「今出川」徒歩5分（新町通今出川上り）

参加自由
入場無料

AIDS文化フォーラムin京都 プレイベント講演会
“性的指向・性自認に係る
児童生徒に対する理解と支援について”
● 講師 栗内 翠浩さん（全国LGBT理解推進ネットワーク代表 代表世話人）
8月26日(土) 13:30-14:50 (13:00 受付開始)
● 会場 同志社大学文化会館小ホール（京都市中京区2021番地）
● 入場無料、参加に費用はかかりません。AIDS文化フォーラムin京都事務局へお申し込みください。http://hiv-kyoto.com
TEL/FAX: 075-841-1111（受付時間：10:00-17:00）

AIDS文化フォーラムin陸前高田

2017 12/3(日)

※東日本大震災前に6回、震災により一時中断、
震災3年後に復活し、11回目の開催



ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりイベント
「ともに生きる～誰もが住みやすいまちに～」



会場 アバッセ（嵩上げ地に完成した商業施設）パブリックスペース

参加者 約300人＋通行人多数

プログラム オープニング、HIV/AIDSとLGBTのいまをかんがえる、今どきのネットトラブル、
HIV/AIDSクイズ、LIVE みんなで歌おうコラボコンサート、展示コーナー

主催 AIDS文化フォーラム in 陸前高田運営委員会

共催 一般社団法人陸前高田青年会議所、陸前高田市、岩手県大船渡保健所、

特定非営利活動法人陸前高田市支援連絡協議会Aid TAKATA（陸前高田災害FM）

AIDS文化フォーラム in 陸前高田を振り返って…

(1) AIDS文化フォーラム in 陸前高田の歩み

2005年陸前高田青年会議所、陸前高田市、大船渡保健所と「人と人のつながり」を考えるきっかけとして、若者たちを巻き込んだAIDSに関するイベントを開催。2011年、東日本大震災をきっかけに、佐々木も岩室も定期的に陸前高田入りをするに。2011年8月のAIDS文化フォーラム in 横浜のオープニングで高橋勇樹理事長の講演と金野兄弟による「ぼくらにできること」を披露。2012年に災害FMで柴田見初代陸前高田青年会議所エイズイベント担当委員長とフォトジャーナリストの安田菜津紀さんとのトークでイベント復活へ。



(2) HIV/AIDSとLGBTの今を考える

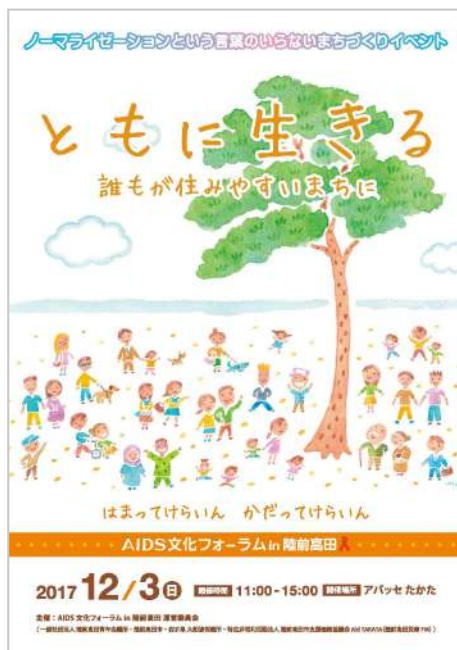
～ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの視点から～

NPO法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス代表理事の高久陽介さん、陸前高田市戸羽太市長、陸前高田市ノーマライゼーション大使の岩室紳也さんがトーク。

高久：自分が思い込んでいた「HIV陽性者」のイメージと、実際に自分が当事者になって感じたことに大きなギャップが。いろんなつながりがあったことで、自分を、他の人を俯瞰して見られるようになっていた。ゲイだからいつも男のことを考えているわけではない（笑）。人の痛みがわかる陸前高田市を感じます。

戸羽：「手を差し伸べてください」ではなく、垣根を取り払うことが大事。それぞれの個性を理解し尊重し合えるまちにしたい。「友達になろう作戦」が大事。

岩室：ゲイの友達が「知るより慣れろ」と教えてくれた。



「普通に接して」 AIDS文化フォーラム

陸前高田市

陸前高田市高田町の「の公開収録では、アパッセタかたで3日、「AIDS文化フォーラム in 陸前高田」(同運営委員会主催)が開かれた。参加者は、市が掲げる「ノーマライゼーション」という言葉の知らないまちづくりに、実現へ向け、この催しをエイズやLGBT(性的少数者)への理解を深める機会とした。

運営委員会は、市と一般社団法人陸前高田青年会議所、県大船渡保健所、NPO法人市支援連絡協議会Aid T A K A T A (市災害FM)で構成され、フォーラムは毎年開催。今年は陸前高田災害FMの公開収録や、地元アーティストらによるコンサート、パネル展示などが行われた。

このうちFMのラジオ番組「はまってけらいん、かだってけらいん」の公開収録では、NPO法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャパンプラス代表理事の高久陽介さんと、戸羽市長、ヘルスプロモーション推進センター代表の岩室伸也医師によるトークセッションを行った。

高久さんは「ゲイと分がそうだと気付くタイミングも違う。自覚を持ってない人もいる」といい、岩室さんも「約子定規で線は引けない」ということへの理解が必要だ、とうなずいた。

会場には、「エイズ」に関して偏見を持っていない、エイズとともに生きる人々を差別しない」というメッセージを示す「レッドリボン」のツリも展示された。

高久さん(中)によるトークセッションに、高田町(電子新聞に別写真あり)

「特別視」される違和感を語った。戸羽市長も「高齢者や障害者、さまざまなセクシャリティーの方も、自分たちに何か特別に手を差し伸べてほしいというわけではない。必要なのは垣根を取っ払うことなのだ」と思う」と、ノーマライゼーションの実現について思いを述べた。

高久さんは「ゲイと言ってもさまざま。自分がそうだと気付くタイミングも違う。自覚を持ってない人もいる」といい、岩室さんも「約子定規で線は引けない」ということへの理解が必要だ、とうなずいた。

会場には、「エイズ」に関して偏見を持っていない、エイズとともに生きる人々を差別しない」というメッセージを示す「レッドリボン」のツリも展示された。

高久さん(中)によるトークセッションに、高田町(電子新聞に別写真あり)

来場者がレッドリボンを飾り付け、ツリを完成させていた。

東海新報
2017年12月6日

FM音源は→
で聞くことができます

(3)今どきのネットトラブル

～デートDV、LINE、Facebook、Twitterのトラブルの背景～

ウィメンズクリニック・かみむらの上村茂仁院長、大船渡保健所の山本詩織保健師、岩手医科大学助教の佐々木亮平保健師、フロアからの若者代表 金子祐樹さん、三浦結香さんで本音のトークを展開。

★ネットトラブルはコミュニケーションの問題/LINE、Facebook、Twitterの違いや特徴、つきあい方

★辛いな、寂しいなという「タイミング」が人にはある ★「会わない」とわからない

★SNSの良い面も考えてみよう ★SNSがないとつながれない時代 ★SNSの規制が大事ではない

★SNSを通じたつながる力、共に生きる といった規制一辺倒の大人への警鐘を鳴らした。

(4)HIV/AIDSクイズ AIDS文化フォーラム in 名古屋から駆け付けたジミー・ハットリくんが参加者と共にクイズにチャレンジ。

(5)LIVE みんなで歌おうコラボコンサート

陸前高田市米崎町出身 まっとくん、SUMITA音楽サークル 音蔵 一般社団法人陸前高田青年会議所 理事長 高橋勇樹 楽曲「伝承～あなたと私でつなぐ未来～」を披露

あなたがいるから私も生きていける
だから普段の日常を大切に過ごそう

あなたの命は皆の命
皆の命はあなたの命
だから守ろう自分を

それがあなた(皆/未来)の為

陸前高田青年会議所が震災の記憶を風化させないために、次代へ「伝えていくべきこと」としてまとめたメッセージ。



(6) 展示

陸前高田青年会議所、岩手県大船渡保健所、AIDS文化フォーラム展、新図書館にHIV/AIDS特別展



広がるAIDS文化フォーラム

2018年の予定



★ AIDS 文化フォーラム in 佐賀 2018 5 / 26 (土) - 27 (日)

★ AIDS 文化フォーラム in 横浜 2018 8 / 3 (金) - 5 (日)

おかげさまで
25周年

★ AIDS 文化フォーラム in 京都 2018 9 / 29 (土) - 30 (日)

★ AIDS 文化フォーラム in 陸前高田 2018 11 / 18 (日)

★ AIDS 文化フォーラム in 名古屋 2018 秋頃 予定

